



「私は国費留学生に負けない日本で一番幸せな私費留学生です」。米山奨学生終了式で、ある中国の米山奨学生が壇上でそうスピーチをしました。彼女は米山奨学生であったことを誇りにし、これからの人生を歩んでいってくれることと思います。

今月は米山月間です。皆様はすでによくご存知のことと思いますが、米山奨学制度は日本のロータリーが誇るべき独自の制度です。この留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

その結果はすぐに出るわけではありません。奨学金を受けている期間、一生懸命に勉学に励み、その後日本で就職する学生、帰国して就職する学生と進路は様々ですが、米山奨学生としての1年ないしは2年間の日本での経験やロータリーとの出会い、繋がりは彼らにとって忘れられない宝物になっています。そしてその感謝の気持ちをいつか形にしたいと思っています。

先日上海で行われた「第2回中国学友会総会」の会場には“感恩・交流・奉仕”というテーマが掲げられていました。そして「日本のロータリーへの感謝を伝え、幅広く交流を行い、奉仕活動をスタートする」と学友会活

動方針を会長が表明しました。中国の学友が寄せる深い感謝の気持ちが伝わった今回の総会・懇親会は、学友、ロータリーそれぞれの胸に大きな感動を刻んだに違いありません。

私たちが米山奨学制度のすばらしさをいくら口で説明したところでなかなかご理解いただけるものではありません。皆様のクラブが世話クラブとなり、カウンセラーとして奨学生と関わることによって、この制度のすばらしさを実感していただけたと思います。そのために是非、次年度以降はまだ世話クラブになったことのないクラブの皆様にも積極的に受け入れをお願いしたいと思います。

彼らが母国に帰ったとき、この日本での留学生活で得たことを国で生かしていく中できっと彼らを感じた日本、出会った日本人のことを国の人々に話してくれると思います。そして日本のよき理解者となってくれると思います。それが日本の平和、もっと言えば世界の平和へつながっていくのだと思います。それは大変地道なことではありますが、この私たちの米山奨学事業の最も大切なところであり、その成果だと思います。引き続き、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。